



仲村ひであき 県議会ニュース

vol.4 2019年春【発行】千葉県議会議員 仲村秀明

仲村ひであきが2月定例会の代表質問に立ちました。

(公明党千葉県議会議員団)

平成31年2月定例会が開催され、公明党会派を代表して仲村ひであきが県内の課題について多岐にわたり質問しました。

1、子どもや若者を取り巻く問題について 2、東京オリンピック・パラリンピックを契機とした取り組みについて 3、外国人との共生について 4、県の業務改善について 5、防災について 6、がん対策について 7、依存症施策について 8、ヘルプマークについて 9、地域包括ケアの推進について 10、肺炎球菌ワクチンについて 11、認知症施策について 12、介護支援ボランティアのポイント制度について 13、林地開発と再生土条例について 14、地域経済の活性化について 15、消費税について 16、森林環境譲与税について 17、河川整備について 18、交通安全対策について

今議会での質問をダイジェストで紹介します。

(詳しくは千葉県議会ホームページで録画をご覧ください)



「ストラップ型ヘルプマーク」の全県配布が決定!

県内公共交通機関の優先席にもヘルプマークが表示されます!

ヘルプマークは、障害等により支援や配慮を必要としていることが外見からは分からない方が、周囲に支援等を必要としていることを知らせるためのマークです。

これまで仲村ひであきは既に県が導入している「ヘルプカード」と共に、より携帯に適している「ストラップ型ヘルプマーク」の導入を求め続けてきましたが、ついに来年度から県での導入が決定。今後各市町村を窓口として配布されます。

また、周知についても併せて求めていた公共交通機関の優先席周辺へのヘルプマークのステッカー掲示が来年度から進むことになりました。

これにより、千葉県の心のバリアフリーがまた一歩前進しました。



認知症施策の推進を!

早期発見、早期受診の一助となるチェックリストが導入されます。

認知症の初期段階は、加齢による症状と見分けが付きづらく、発見・対応が遅れることがあることから、認知症の早期発見・早期対応につなげる取組が重要です。これまで県に対して導入を要望してきた本人や家族が日常生活の中で認知症に気付く一助となる「認知症チェックリスト」が今年度導入されます。チェックリストは、ホームヘルパーが居宅訪問時に活用できる「居宅訪問用」、「一般高齢者用」、「若年性認知症用」の3種類が予定されており、作成後は、3種類の合計16万部が市町村や医療機関等に配布されるとともに、県庁ホームページで公開され、広く県民の皆様が活用できるようになります。



青少年の相談体制の充実! SNSを活用した相談窓口がスタートします。

青少年を取り巻く環境は年々複雑多様化し、いじめ等も大きな問題となっております。近年様々な悩みを気軽に相談できる窓口としてSNSによる相談窓口が注目されています。これまでSNSを活用した相談窓口を作るべきと訴えて参りましたが、県では来年度、SNSによる相談窓口を試行的に開設し、県内の国公私立を含めた全ての高等学校と特別支援学校高等部の生徒約16万人を対象に、生活や気持ちが不安定となりやすい夏休み期間を中心に、相談を受け付けることになりました。



県業務の改善を！ RPAやAIを活用した効率化による県民サービス向上を求めました

人的資源が限定される中で、多様化する県民ニーズに的確に応えていくためには、業務改善や効率化を図る必要があり、ICTの利活用による業務改善を求めました。

県は現在、「千葉県ICT利活用戦略」の策定を進め、県業務へのRPAの導入に向けた具体的な検討を行っており、今後もICTを活用した業務改善に取り組んでいくとの答弁がありました。業務改善によってコスト削減や時間短縮、労力削減が期待できると共に、効率化して生じた時間やマンパワーを住民サービスに充てることが出来ることから、スピード感を持って取り組むことを要望しました。



県庁における防災力向上を！ 県庁での防災井戸設置に向け調査を行います

大規模災害時に防災拠点となる県庁舎において、災害対策業務を継続するためには、長期間の断水も視野に入れた「水の確保」が大変重要です。国の指針では7日分を確保するよう推奨していますが、現在、県庁舎では、ペットボトルの備蓄と貯水槽により約4日分の水の確保に留まっています。その対策として、防災井戸の活用を提案しました。それにより、県は衛生環境上、大量の水が必要となる生活用水に充ててことを目的に、防災用井戸の設置可能性などの調査に係る経費を平成31年度当初予算に計上しました。

水についてはあらゆるルートから確保しておく必要があり、飲用も視野に入れた防災井戸の設置を要望しました。



生活道路の安全を守れ！ 可搬式速度違反自動取締装置の導入が実現

ナビゲーション搭載の車が増え、通学路を含む生活道路であっても抜け道として多くの車が通るようになってきています。中には結構なスピードで走り抜けて行く車もあり、大変危険です。ゾーン30指定等によって一定の効果は出ていますが、慣れてくるとまたスピードが上がってくることが懸念される為、抑止効果を維持するための速度違反取り締まりを定期的に行う事が有効です。そこで、幅員の狭い道路にも設置可能な可搬式の速度違反自動取り締まり装置いわゆる可搬式オービスの導入を求めました。

県警では装置を導入、活用して取締りを強化し、通学路や生活道路における交通事故の防止を一層図ることになりました。



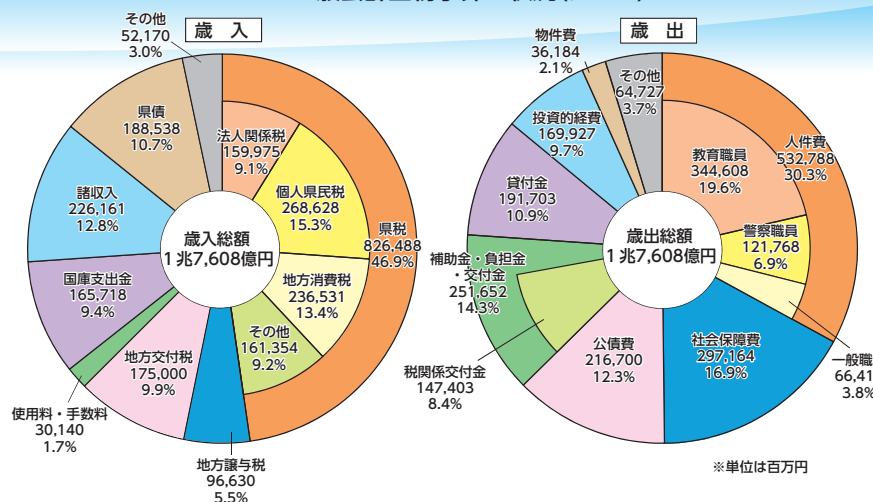
2月定例会の概要(平成31年度当初予算が確定しました)

今議会では平成31年度当初予算案を含む議案100件が可決されました。平成31年度当初予算は、子ども・子育て世代への支援充実、医療・福祉の充実、くらしの安心・安全の確立、商工業の振興・雇用、農林水産業の振興、千葉の魅力発信、文化・スポーツ・環境施策の推進など「くらし満足度日本一」に向けた事業が計上され、当初予算規模は1兆7,608億4,500万円で前年度比1.8%(319億6,400万円)増となりました。

今年度主な事業

- ・スクールソーシャルワーカーの増員(13名増)
- ・訪問看護ステーション等出向支援事業 ・介護人材確保対策事業
- ・映像による防災意識の向上促進事業
- ・「働き方改革」推進事業(テレワークの導入支援等)
- ・県産木材利用促進の取組 ・ホームドアの設置(2駅)
- ・東京2020大会の機運醸成 ・障害者芸術文化活動支援事業 等

一般会計当初予算の状況(グラフ)



地方消費税の税率引上げによる増収分については、全額、社会保障関係経費の財源に充てています。
○地方消費税のうち、税率引上げによる増収分(歳入)524億円
○社会保障関係経費のうち、一般財源の額(歳出)3,036億円



プロフィール

なかもら ひであき

仲村 秀明

昭和44年7月2日生まれ 千葉県出身

千葉県議会議員(船橋市選出、1期)。公明党千葉県議会議員団所属。
議会運営委員、商工労働企業常任委員、千葉県国土利用計画地方審議会委員。船橋市芝山在住。
仲村ひであきの議会活動は、ブログ、フェイスブックでも発信しています

県政についてのご意見をお寄せ下さい

[FAX] 047-409-0265
[メールアドレス] info@nakamura.chiba.jp
[HP] http://nakamura.chiba.jp